

糖尿病の足病変

糖尿病は、内科の病気と一般に理解されていますが、皮膚にも、多彩な症状を生じます。特に、足病変については、最近、注目されており、正しい知識を持つておくことは、足を守るために必要です。

今回は、糖尿病の皮膚症状のうち、足病変を中心にお答えします。

質問：糖尿病ではなぜ皮膚病が生じやすいのですか？

回答：糖尿病の場合は、細菌に対する抵抗力が低下するため、皮膚が化膿しやすくなります。皮膚が化膿して、皮膚科を受診され、検査すると、糖尿病が見つかることもよくあります。細菌のみならず、カビ(真菌)や、ウイルスに対する抵抗力も低下しているため、水虫にもなりやすく、ヘルペスもひどくなりやすい傾向があります。

質問：足潰瘍はなぜ生じやすいのですか？

回答：糖尿病の足潰瘍の原因としては二つの事柄があげられます。

- 1) 神経が障害され痛みを感じにくくなるために足に傷があっても発見が遅れ、細菌感染を伴い潰瘍となる神経因性潰瘍と
 - 2) 血流が悪くなるために生じる虚血性の潰瘍
- に分類されます。1)による潰瘍はじゅくじゅくした感じの潰瘍で色調は赤っぽくなることが多く、2)による潰瘍は乾いた感じで色調は黒っぽくなります。いずれも、早期に適切な治療が必要です。

質問：足潰瘍を予防するには？

回答：足を守るためには、とにかく、早期発見、早期治療が大切です。糖尿病の方で、内科を受診される場合は、皮膚科も受診していただき、足病変が存在しないか検診されることをおすすめします。当院では、糖尿病について学習いただく入院も実施しており、その際には皮膚科でも足病変の検診を行っています。さらには、御自分でも、お風呂に入られた時などに足を見る習慣をつけてください。足の皮膚の色は変わっていないか？傷はないか？爪は白く濁っていないか？などに注意して足を見るようにしてください。

質問：日常生活で気をつけることは？

回答：靴擦れの傷から、足潰瘍になることが多いため、靴選びには注意が必要です。爪を切る時は深爪をしないようにしましょう。タバコは足潰瘍にとっても百害あって一利なしです。足に関心を持つことにより糖尿病に対する治療意欲も高めましょう。

文責(森田秀樹)